



平成20年11月6日

各位

会社名 イハラサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 中野琢雄
(コード番号 5999)
問合せ先責任者 取締役常務執行役員 真鍋秀郎
TEL (03)5742-2701

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月8日に公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日~平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想(A)	7,200	1,600	1,600	1,000	75.07
今回修正(B)	6,609	1,072	1,060	619	47.13
増減額(B-A)	590	527	539	380	
増減率(%)	8.2	33.0	33.7	38.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	6,825	1,447	1,401	834	62.63

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日~平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想(A)	14,500	3,200	3,200	2,000	150.14
今回修正(B)	12,000	2,050	2,000	1,150	87.45
増減額(B-A)	2,500	1,150	1,200	850	
増減率(%)	17.2	35.9	37.5	42.5	
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	13,805	2,768	2,675	1,455	109.29

修正の理由

第2四半期累計期間においては、当社グループの主要な取引先である油空圧機器業界は、当

初から前年割れとなっていた空圧機器業界の出荷額に対し、堅調であった油圧機器業界の出荷額も終盤には前年割れの展開になりました。また半導体製造装置関連の業界は当初市場の減少傾向は下げ止まると予想しておりましたが、前年からの我国の製造装置の受注・販売高は前年比40%を超える減少を続けました。さらに、我国の液晶製造装置市場においても、前年比約60%減となり、当初予想していた減少幅を大きく超える状況となりました。その中でも半導体関連部門の受注が下回り、売上高は66億9百万円と予想比5億90百万円の減少となります。利益面では、製造部門において生産性の向上に注力してまいりましたが、材料費の高騰、物流費の高騰等が予想を上回り、営業利益は前回予想から5億27百万円減益の10億72百万円、経常利益は前回予想から5億39百万円減益の10億60百万円、四半期純利益は前回予想から3億80百万円減益の6億19百万円と減少し、当初予想を下回ります。

通期の連結業績予想につきましては、サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融市場の混乱や、原材料価格高騰による物価上昇への懸念等から個人消費は伸び悩み、液晶・半導体製造装置関連の業界における設備投資の抑制傾向は、前年同期を下回る水準で推移しており、また、油空圧機器業界においても、国内需要減退等が見込まれる等、引き続き当社グループを取り巻く環境は厳しさを増すことが予想されます。このような状況のもと、当社油圧製造装置関連の事業部門、半導体製造装置関連の事業部門ともに、当初比約18%販売計画を減少いたしましたので、第2四半期累計期間の業績動向も踏まえ、売上高につきましては前回予想から25億円減収の120億円の見込であります。利益につきましては、第3四半期連結会計期間より、生産性の向上及び販売価格是正効果が見込まれることを考慮し、営業利益は前回予想から11億50百万円減益の20億50百万円、経常利益は前回予想から12億円減益の20億円、当期純利益は前回予想から8億50百万円減益の11億50百万円となる見込であります。

(注)業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績が記載の予想と大幅に異なる結果となる可能性があります。

以 上